

オーストラリアのクイーンズランド州における大学入学者選抜制度

研究開発部試験制度研究部門 山 村 滋

はじめに

オーストラリアにおいては、高等教育に関しては、連邦政府の雇用・教育・訓練省 (Department of Employment, Education and Training) が管轄し、初等・中等教育は各州や直轄区のエデュケーション担当省 (Department of Education) もしくは Ministry of Education が責任を負うことになっている。また、高等教育への入学者選抜制度は、州ごとに異なっている。本稿では、オーストラリアで最も先進的であると考えられる、オーストラリア大陸の東北部を占めるクイーンズランド (Queensland) 州の大学入学者選抜制度とその特徴について述べる。

1 クイーンズランドの教育制度と大学

我が国の国土の4倍以上もの広大な土地に、約300万の人々の住むクイーンズランド州の義務教育は6歳から15歳までであり、6歳から12歳までが初等教育、13歳から17歳が中等教育、16、

17歳が後期中等教育段階である。17歳まで在学する者は約70%であり、そのうちの、約40%が、大学及び技術・継続教育カレッジ (Technical and Further Education College: TAFE) に進む。

同州には、1995年現在7つの大学 (University) がある。なお、大学入学者の約半数は後期中等教育から直接進学する者たちであるが、残りの約半数は、成人 (社会人) であったり、TAFEを経由してくる人たちである。

また、オーストラリアでは国土が広大なこともあって地元の大学への志向が強いようであるが、クイーンズランド州に限らず、他州の大学へ志願することも、逆に、他州に住む者が、クイーンズランド州の大学に志願することも可能である (オーストラリアでは、平均で志願者の5%程度が他州からの志願者である)。

2. 大学入学者選抜制度の基本的構造

クイーンズランド州の大学入学者選

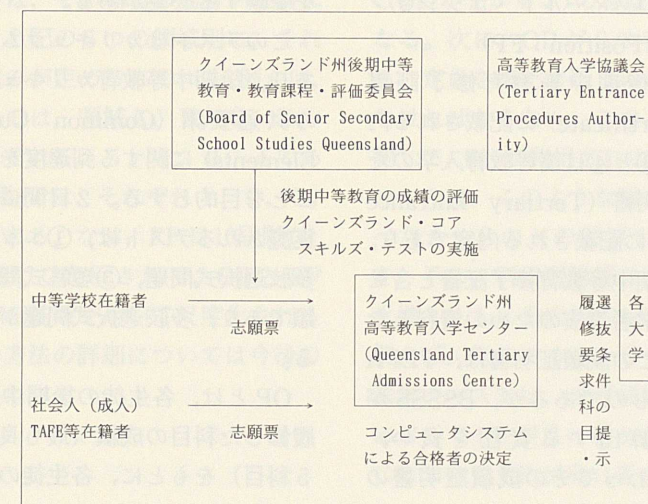
抜制度の見取り図をここで示しておこう (図1)。

大学入学志願者は中等学校在籍者・社会人に限らずクイーンズランド州高等教育入学センター (Queensland Tertiary Admissions Centre: QTAC) に志願票を提出する。大学は各コースごとに志願の要件や選抜の条件を提示する。後期中等教育からの志願者を選抜するための学力情報は、クイーンズランド州後期中等教育・教育課程・評価委員会 (Board of Senior Secondary School Studies Queensland: BSSSS) がQTACに提供する。QTACではコンピュータシステムにより、大学からの条件に照合しながら、合格者の決定を行う。高等教育入学協

議会 (Tertiary Entrance Procedures Authority: TEPA) は、入学者選抜手続き等について州の教育大臣に勧告を行ったり、「高等教育入学のための成績証明書」 (後述) の発行などを行う。

クイーンズランド州では2月から新年度が始まるが、志願票はその前年の9月に受け付けられる。6つの大学、もしくはコースまで志願することができる。BSSSSによる後期中等教育の成績評価は12月中旬に公表される。そして、12月下旬から1月中旬ころまで、BSSSSの成績評価に対する不服申立の期間が設定されている。こうして、可否は1月中旬に決定される。

図1 クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の見取り図



3. クイーンズランド後期中等教育・教育課程・評価委員会

中等学校からの志願者の選抜のための学力評価の責任を負っているのが、クイーンズランド州後期中等教育・教育課程・評価委員会 (BSSSS) である。

同委員会は、中等学校最終学年 (第12学年) の生徒のために学業プロフィール (Student Education Profile: SEP) を発行する。これは、以下の4つから構成されている。

- ① 後期中等教育 (year11, year12) の2年間に履修した科目とその履修期間及びその成績
- ② クイーンズランド・コア・スキルズ・テスト (Queensland Core Skills Test: QCS) の成績
- ③ 生徒のオーバーオール・ポジション (Overall Position: OP)
- ④ 生徒のフィールド・ポジション (Field Position: FP)

①と②は、後期中等教育修了証書 (Senior Certificate) に記載される内容である。③と④は高等教育入学のための成績証明書 (Tertiary Entrance Statement) に記載される内容であり、これは、後期中等教育修了証書と合せて、大学入学者選抜のための資料となる。なお、この成績証明書は、TEPAが発行するものであるが、BSSSSがOP, FPを算出する責任を負い、TEPAに代わってその成績証明書の

印刷、生徒への送付を行っている。なお、これは上の証書と同時に発行される。①の生徒の各科目の成績は、5段階で評価される (Very High Achievement: VHA, High Achievement: HA, Sound Achievement: SA, Limited Achievement: LA, Very Limited Achievement: VLA)。なお、大学入学志願科目のために認められている科目 (Board subject) は、1996年度に中等学校最終学年を終える生徒の場合、52である。

クイーンズランド・コア・スキルズ・テストとは、その成績が選抜に直接使われるテストではないが、選抜資料となる、次に述べるOP及びFPを算出するために使われるテストである。中等学校から直接、大学へ入学しようとする者は、必ず最終学年にこのテストを受験する必要がある。

このテストはカリキュラム横断型であり、後期中等教育カリキュラムの49の共通要素 (Common Curriculum Elements) に関する到達度を測定することを目的とする。2日間にわたって実施されるテストは、①エッセイ、②多肢選択式問題、③短答式問題の3種類であり、多肢選択式問題が2種類ある。

OPとは、各生徒の後期中等教育で履修した科目の成績 (最も良い成績の5科目) をもとに、各生徒の学力が、

州全体においてどこに位置付くかを示すものであり、25段階で表示される (1が最上位)。

FPとは、各生徒に関して、5つの評価領域別の位置を示すものである。5つの評価領域とは

- ① 領域A: 長文による表現 (アイディアの複雑な統合・分析を含む。)
- ② 領域B: 短い文章によるコミュニケーション (読解や英語による基礎的な表現を含む。)
- ③ 領域C: 基礎的な数学 (簡単な計算やグラフ・表の解釈を含む。)
- ④ 領域D: 複雑な問題を解くこと (数学の記号や抽象的なものを含む。)
- ⑤ 領域E: 実的なパフォーマンス (身体的・創造的な芸術や表現技能を含む。)

各科目は、その科目の内容・性質によって、上記の5つの領域別に、それぞれの重みが定められている。例えば、「英語」では、領域A, B, C, D, E, それぞれ5, 5, 1, 0, 4であり、「物理」では、それぞれ1, 2, 5, 5, 1である。なお、FPは10段階 (1が最上位) で表示される。OPとFPは、QCSの結果を用いて尺度化されるが、その方法の詳細については今後の課題としたい。

4. 選抜のプロセス

それでは、以上を利用してどのように選抜が行われるかをみてみよう。まず、大学側の提示する科目履修要件及びその到達水準を満たしているかどうか問われる。

例えば、1997年度の場合、クイーンズランド大学の法学コースでは、「英語」を後期中等教育の2年間履修し、その成績がSA以上であることである。また、クイーンズランド工科大学のコンピュータ科学コースでは、「英語」と「数学B」を後期中等教育の2年間履修し、その成績のいずれもがSA以上であることである。

次に考慮されるのがOPである。例えば、定員が30人であるとしよう。25人までは、OPが7以上であり、OPが8の者が10人いる場合、OPが7以上 (OPが1から7) の者は、全員合格となる。次に、OPが8の者10人の中から、定員を満たす残りの5人を選抜しなければならない。このような場合に関して、FPが利用される。各大学の各コースは、このような場合に、上に述べたA～Eのどの領域を考慮するかを、予め、科目履修要件及びその到達水準とともに公表しているのである。例えば、先のクイーンズランド大学の法学コースでは、まず領域AまたはBにおいてFPが良い者から、次に領域CにおいてFPが良い者から選抜する

ことになっている。従って、先の残りの定員5人を領域Aから選抜するとあらかじめ公表しているとすれば、OP8の者10人のうちから、領域Aにおいて、良い成績の者から5人までが選抜されることになる。

このような、選抜の作業は、コンピュータを利用したシステムによって行われているが、その実際上の作業を行っているのが、次に述べるクイーンズランド州高等教育入学センター（Queensland Tertiary Admissions Centre：QTAC）である。

5. クイーンズランド州高等教育入学センター

クイーンズランド州には、上記の大学やその他の高等教育への志願者を一括して扱う高等教育入学仲介機関であるQTACが設置され、ここが志願者を一括して受け付ける。また、上に述べたような選抜の作業を行っている。なお、前に述べたようにクイーンズランドでは、6校まで志望順位を付けて志願することができる。

1. で述べたように、クイーンズランド州では、社会人等の高等教育志望者が多い。従って、このような人たちと後期中等教育からそのまま大学に志願する人をどのように同じ土俵で、比較し選抜するかということが、問題となる。従って、様々な資格、あるいは

職業経験について、それらを99段階の尺度で表すための、膨大な換算表をQTACは作成している。各大学はこの表をそのまま、あるいは、一部変更して、選抜のために利用する。

社会人志願者は、6つまで取得資格、あるいは、職種と在職年数など、選抜のために尺度化される情報を志願票に記入する。この中から、換算表によって、それぞれの資格等で、最も高い評点が与えられるものが、選抜のための評点となる。そのために、社会人のための志願票はA4サイズで実に16ページのものである。

おわりに

最後に、クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の特徴について簡単にまとめておきたい。同州では、主な選抜資料として中等学校の成績が用いられている。これは、中等学校への大学からの影響を最小限に抑え、中等教育内容の多様性を確保するためにとられたと言えるであろう。この場合、大学からみれば、中等学校の成績評価の確かさと、いかに大学からの要求を反映させるか、が問題となる。前者に関しては、これを保証するために、BSSSSという、第三者機関が設けられているのである。さらに、QCSテストを利用して、多様な履修科目の中等学校生徒の成績を、選抜情報に変換する点もユ

ニークである。

後者に関しては、まず、大学入学志願のために認められる科目の設定があるが、主に、「履修要求科目」の設定によっていると考えられる。「履修要求科目」は1科目ないし2科目の場合が多いようである。これを増やすことは、中等学校での履修科目を制限することになるからであろうか。

また、「選抜」においては、公正さが求められることはもちろんであるが、

これをOPにより総合成績上位のものからまず選抜し、ボーダーライン層においてFPを利用して選抜を行うという形で、適性を重視していると考えられる。

我が国とは、歴史も事情も異なるが、クイーンズランド州の大学入学者選抜制度を詳しく検討することは、我が国の制度改革を考える上で、貴重な示唆を与えてくれると思われる。